

各国公立大学附属病院長殿  
各国立高度医療研究センター病院長殿  
臨床系学会代表者殿

国立大学附属病院長会議  
大学病院医療情報ネットワーク (UMIN) 協議会  
会長 松村泰志  
(公印省略)

UMIN 医学研究支援 (症例登録割付) システムクラウド版 (INDICE Cloud)  
講習会開催のお知らせ

平素より、大学病院医療情報ネットワーク (UMIN) の運営にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この度、UMIN 医学研究支援 (症例登録割付) システムクラウド版【INDICE cloud】の講習会を下記の要領で開催することとなりましたのでご案内申し上げます。INDICE Cloud は、無料で簡便に使うことが可能で、セキュリティ保護の面でも優れたクラウド型の臨床・疫学研究症例登録割付システムです。尚、INDICE Cloud についての概要は別添資料、詳細については INDICE Cloud ホームページ (<https://www.umin.ac.jp/indice/cloud.html>) をご参照お願いします。講習会では、画面作成から各種設定といったシステム運用開始までの一連の作業を、UMIN スタッフサポートのもとで演習いたします。是非、貴院・貴会関係者にご周知いただければ幸いです。

記

開催日時： 令和2年2月12日 (水) 13:00~17:00  
          令和2年3月 3日 (火) 13:00~17:00  
          令和2年4月24日 (金) 13:00~17:00  
          令和2年5月11日 (月) 13:00~17:00

開催場所： 東京大学医学部附属病院 管理研究棟4階 UMIN センター会議室

募集定員： 各回6名まで (先着順、1施設1名までに限定)

参加費： 無料

参加資格： 各自、以下の環境のノートパソコンを持参できること

- ①有線 LAN 接続可能機器
- ②ウイルス対策ソフトインストール済みの機器
- ③最新ブラウザインストール済みの機器

Win OS : Firefox・Google Chrome

Mac OS : Firefox・Google Chrome・Safari

申込方法: INDICE cloud 講習会 HP (<http://www.umin.ac.jp/indice/entry.html>) の「申込フォーム」からお申込みください。

本件に関するお問い合わせ先

東京大学医学部附属病院大学病院医療情報ネットワーク (UMIN) センター  
担当: INDICE スタッフ ([indice@umin.ac.jp](mailto:indice@umin.ac.jp))

(別添資料)

臨床・疫学研究においては、症例登録・無作為割付を第三者機関が実施し、その経過を記録に残すことが、研究の質を担保するために非常に重要とされています。しかしながら、第三者機関に症例登録・無作為割付を依頼するには一定の経費と期間が必要となります。

従来、UMIN では、開発費用の一部をご負担いただき、UMIN センターで個別の研究プロジェクトに対してソフト開発を行う INDICE サービスを 2000 年より提供しておりました。しかしながら、お引き受けできる件数にも限りがあり、登録症例数が 100 例以上であることを利用条件としておりました。

このたび、UMIN では、無料で簡便に使うことが可能で、セキュリティ保護の面でも優れた医学研究支援 (症例登録割付) システムクラウド版 (INDICE Cloud) の提供を開始いたしました (<https://www.umin.ac.jp/indice/cloud.html>)。INDICE Cloud では、臨床・疫学研究の症例登録割付システムの画面作成、設定をインターネットを介して、各研究プロジェクトの管理者が自分自身で行うことができます。従来の INDICE では、UMIN に必要な情報をお送りいただいた上、UMIN センター側でソフト開発を行い、画面作成や設定を行っていましたが、INDICE Cloud ではご自身で作成や設定が可能です。また INDICE では 100 症例以下の予定症例登録件数の場合、お受けすることができませんでしたが、INDICE Cloud では症例数の少ないプロジェクトでもご利用が可能になりました。INDICE Cloud は、デザインの簡易な研究での利用を想定しており、無作為割付機能は動的割付に対応しているものの、群数は最大 2 群、割付回数は最大 1 回までしか対応していませんが、この機能の範囲でも実施可能な臨床・疫学研究 (特に小規模な研究) はかなりの割合で存在すると思われます。またシステムの構築も各研究グループが独自に進めていただけのため、スケジュールに余裕がない場合にも利用が可能です。